


第2回報告

| | | |
|--------------|--|--|
| <p>テーマ</p> | <p>「高齢者の自己決定権」 ～あなたは、どのように 死と向き合いますか ライフスタイルの最終章～</p> |  |
| <p>日時</p> | <p>平成26年7月29日(火曜日) 午後2時から午後4時まで</p> | |
| <p>場所</p> | <p>尼崎市立神崎総合センター</p> | |
| <p>講師</p> | <p>患者のウェル・リビングを考える会代表 藤本 啓子さん</p> | |
| <p>参加者</p> | <p>27名</p> | |
| <p>事業の目的</p> | <p>高齢者に対して家族や医療者・介護者が自分の価値感を押し付けてしまうことのないよう、高齢者の自己決定権を尊重する重要性と、当事者が、人生の最期をどのように過ごしていくのか「生前の意思」について考える機会として開催しました。</p> | |
| <p>実施内容</p> | <p>高齢者の自己決定権を巡り、リビング・ウィル(事前指示書)を作成する意義や作成する上で大切なこと、作成するまでに何をすべきかを講師からの講話を通じて学びました。</p> <p>リビング・ウィルは、意識や判断能力がなく、自分の意思や希望を家族や医療者・介護者に伝えることが不可能となった時のために意思表示しておくことを言います。</p> <p>それは、当事者の意思や希望を、家族や親しい人たちがわからずに苦しんだりしないようにするという、自分の死と向き合い生を振り返るということ、死後に効力がある遺言とは異なるということ、作成する上で家族や医療関係者と死を巡っての対話が必要となることなど、作成する上でのプロセスが大切であることを述べられました。</p> <p>その後、グループに分かれ「必要な栄養や水分を口から取ることができなくなったときに人工的に摂取することを希望するか」というテーマのもと意見交換会を行いました。「人工栄養を続けたい、あるいは、やめたいと思うのはどのような時か」の議題に、延命することでの治療費のこと、自然死を望むがそうはいかないということ、リ</p> | |

| | |
|----------|---|
| | <p>リビング・ウィルを作成していると胃ろうなどの器具を家族の判断で外することができることなど様々な意見が飛び出し、自分自身のことを考えるきっかけとなりました。</p> |
| 参加者からの感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生き方について考える時間が持てた。 ・ グループ討議の時間をゆっくり取ったため一方的な講座にならなかった。 ・ テーマが普段あまり意識していないことでしたが逆に今後はゆっくり考えておきたいと思った。 ・ リビング・ウェルについて考えるきっかけとなった。 ・ すごく考えさせられる内容であった。今まであまり自分について考えることがなかったので少し考えてみようと思った。 |
| 成果 | <p>医療に対する考えは、各々で異なります。当事者・家族・医療者によってもその希望や考えは異なる場合があります。リビングウィルを作成することにより、当事者の考えや希望を伝え、一人ひとりの希望に即した人生の最期を迎えることが可能となることを本事業により学びました。</p> |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 尼崎市職員研修としても位置づけ実施しました。 ・ 平成 27 年 1 月 13 日の「じんけんスタディツアー帰着式」の際、1 回限りの事業ではなく連続講座として開催し、「エンディングノートの作成講座」など、もう少し内容を深めて学びたいとの意見が出されました。 |